

令和7年度 未来を拓く生徒主体の授業づくりプロジェクト報告書

学校番号	30	学校名	巨摩高等学校	全・定・通	定	在籍生徒数	18	名
スクールポリシー (学力に関するもの)	基礎学力を身につけ、向上心を持って継続的に学び続ける人材を育成する。							
グラデュエーション ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の一員としての責任を果たし、地域に貢献できる人材を育成する。</li> <li>・基礎学力を身につけ、向上心を持って継続的に学び続ける人材を育成する。</li> <li>・感謝と思いやりの気持ちをもち、周囲の人と協力し合う姿勢を育成する。</li> </ul>							

生徒主体の授業への転換のための取組テーマ

1. 自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり
2. ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>○(株)すららネットが提供するAI学習教材「すらら」(教科:国、数、理、地、公、英、情)等の利用を通して、授業や家庭学習における「個に応じた指導」(学習者視点の「個別最適な学び」)の実践に取り組む。</li> <li>・「すらら」の操作や活用方法についての教員対象研修会を実施する。</li> <li>○また、生徒の状況に応じて段階的に教科別・学年別で家庭学習を導入する方法を検討し、自立した学習者の育成を目指す。</li> <li>・家庭学習をどの年次にどの科目を導入することが、生徒にとって無理なく家庭学習に取り組むことができるか検討していく。</li> </ul>
--

「生徒主体の授業への転換のためのアンケート」高評価数値の推移(%)

	R7中間	R7末
1. 自分の学習課題や学習方法を選択して自主的、自発的に学習に取り組むことができた。(①強くそう思う、②そう思う)	94.3%	89.8%
2. 授業でICT機器を効果的に活用することができた。(①強くそう思う、②そう思う)	47.9%	55.6%
3. 家庭学習でICT機器を効果的に活用することができた。(①強くそう思う、②そう思う)	29.8%	32.7%
4. 授業で他の生徒と話し合いながら、自分の考えを深めたり、新たなことに気付いたりすることができた。(①強くそう思う、②そう思う)	75.2%	75.6%
5. 学んだことを生かして、授業で自分の考えをまとめて発表したりすることができた。(①強くそう思う、②そう思う)	75.8%	74.7%

総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の取組を含む)

取組テーマとして設定した「自ら自己調整をしながら学習を進めていくことができる自立した学習者づくり」に関するアンケート項目1の結果は、中間および年度末評価で高い評価を得られた。このことから学校での学習で自主的・自発的な姿勢を来年度も引き続き育成していく。

一方、取組テーマ「ICTの利活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実」を測るアンケート項目2では、学校におけるICT機器の活用に関する高評価数値が5割程度にとどまり、全校生徒の半分がICT機器を効果的に活用できていないと考えていることが明白になっている。さらに、アンケート項目4においては高評価数値が3割程度と非常に低い。本校は夜間の定時制課程であり、生徒の多数が日中何らかのアルバイトに就いていることや卒業後に高等教育への進学希望者がほとんどいないことを考慮すると、数値的に低いことは想定されることが、自立した学習者を育成するためにも、家庭でICT機器を利用した学習を促せるよう工夫する必要がある。

各教科の取組		※左欄の取組テーマの実践を通して各教科の資質・能力を育成する。			
教科	生徒が身に付ける資質・能力	中間評価	年度末評価	課題解決のための次年度の取組	
国語	(1)漢字や語彙、表現について適切に理解し、実生活に活かすことができる。	4.1	4.0	漠然と覚えるのではなく、意味や裏付けをもつて覚えるように、基礎的な知識・技能こそ裏付けをもつて指導することを継続していきたい。	
	(2)他者に正しく伝わることを意識しながら、自分の考えを表現することができる。	4.1	4.1	書き方の指導と書く内容の指導は別であることを生徒にも意識させることで、表層することなく表現ができるようになったため、引き続き表現方法と内容の指導の区別を意識していきたい。	
	(3)言葉を通して日本の文化を理解し、様々な文化を比較して味わうことができる。	4.1	4.0	自分の考えを表現することで他者と比較することができ、その際に優秀をつけるのではなく考えの違いを楽しむことで、他者と関わろうとする態度を養ってきたい。	
地歴公民	(1)授業で教わった地歴公民科の学習内容を知識として身に付け、理解することができる。	4.0	4.1	不十分な点は、反復学習を行い、さらなる定着を図りたい。また、生徒が理解しやすいように、教材づくりを工夫していきたい。	
	(2)社会にみられる課題について、考察したうえで、作文にまとめたり、発表することができる。	3.7	3.6	高度な内容の新聞記事も徐々に増やしていき、社会的考察力と文章力の両方を向上させるよう指導を工夫していく。	
	(3)授業を通じて、自分が社会の一員として自覚を高め、自ら進んで学ぼうとすることができる。	4.1	4.1	探究する時間を十分にとることができなかったため、授業の進め方を工夫し、探究する時間を捻出できるように心がけたい。	
数学	(1)基本的な概念や定理・法則を理解し、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付けることができる。	4.4	3.9	解答を導き出す過程を丁寧に扱い、その思考の流れを意識させることで、なぜそうなのかを理解できるよう指導し、数学的な概念や原理への興味・関心を喚起する。	
	(2)事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養うことができる。	3.9	3.8	少人数授業の特性を生かし、グループで解法や思考過程を説明・共有する対話的な学習を充実させ、数学的な見方・考え方を働かせた深い理解を促す。	
	(3)粘り強く考えようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を養うことができる。	4.5	4.0	問題解決の過程を重視し、見直しを立てたり考え直したりする活動を通して、粘り強く考えようとする態度を育てる。また、解決後に自らの考え方や解法を振り返り、改善点を生かす活動を行う。	
理科	(1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する知識を身に付けることができる。	4.4	4.2	理解度に個人差があるので、全員が理解できるよう丁寧に指導していきたい。また、BYODを使い、調べ学習も効果的にやりたい。	
	(2)観察・実験などを行うことにより、技術を培い、科学的に探究する力を養うことができる。	4.5	4.0	実験を行うことは、理解を深めるために必要なことである。年間17回の実験を行ったが、更に改良を重ね、自然科学への理解が深まるような授業づくりを行ってきたい。	
	(3)自然の事物・現象を主体的に知ろうとし、科学的に探究することができる。	4.2	4.1	ただ、教科書の説明に科学的ではなく、身近な身近な事例を導入することが大切。身近な事象に科学的の興味あふれる原理が隠れていることを、より伝えていきたい。	
体育	(1)運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続する能力を養うことができる。	4.4	3.8	身体運動の理論を理解し、運動に結び付けていた。次年度も引き続き、生徒が自ら学びに向かえるようサポートしたい。	
	(2)自分ともに課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに自己や仲間と考えたことを他者に伝えることができる。	4.1	3.8	楽しく運動している様子が見られる。他学年と合同で体育も実践した。よりよく運動を実践するためのコミュニケーションが図られるようにしたい。	
	(3)運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組み互いに協力し、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけることができる。	4.3	4.0	運動することで心身リフレッシュできた。良質な睡眠、栄養バランスの良い食事を取るなど、身近な生活習慣を整えることで心と体の健康を保つことができる意識させたい。	
芸術(書道)	(1)古典の特質について理解し、表現するための技能を身に付けることができる。	4.0	4.0	主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組みせ、書の伝統と文化に関心を持たせたい。	
	(2)創造的な表現を工夫し、芸術の素晴らしさや美しさを深く味わうことができる。	4.6	4.1	書の伝統と文化について幅広く理解させ、日常生活の中で書の効用を理解させたい。	
	(3)創造的な表現を工夫し、豊かな情操を培うことができる。	4.3	4.1	席書き大会に積極的に参加させ、書の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組みせたい。	
外国語	(1)英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことに活用することができる。	3.7	4.2	既習の語彙、表現、文法項目などを繰り返し扱い、記憶の定着につなげ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの活動につなげていく。	
	(2)英語で情報や考えを理解したり、表現したり伝え合ったりすることができる。	3.8	4.0	教科書で扱う英文の概要を捉えられているかを簡単な英語の質問で確認する。	
	(3)自分から英語を用いてコミュニケーションを図ることができる。	3.2	3.7	簡単な質問は英語で行うことで、自ら英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする機会を設ける。	
家庭	(1)家族、福祉、消費生活、衣食住、生活設計などに関する知識や技能を身に付け、自身の生活に活かすことができる。	4.3	4.3	食生活の現状や課題について考えさせ、日常の食生活の問題点について考える機会を作りた。	
	(2)生活の充実に向上を図るための課題を見出し、その解決を目指して思考を深めて創意工夫することができる。	4.0	4.1	基礎的な調理技術を身につけ、生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるように、日常食を作れるようにさせたい。	
	(3)自身が将来の担い手であるという意識を持ち、家事労働やボランティア活動などに参加するなど意欲的に取り組むことができる。	3.6	4.4	環境を考えたエコクッキングや食料自給率の問題について考える機会を作り、食生活の変化や問題点を知らせたい。	
情報	(1)情報と情報技術について理解を深め、技能を習得することができる。	4.0	2.7	PCでよく利用されるアプリケーションを限られた授業数の中でよく演習できた。課題を反復させることで定着を図ってきたい。	
	(2)問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を効果的に活用することができる。	3.0	3.4	AIの登場により、より生活の中に情報技術が入り込んでいる。その中で情報技術の仕組みやAIなどの情報技術の活用について話し合うことができた。もっとそのよき時間を取れるように工夫していきたい。	
	(3)情報と情報技術を適切に活用し、情報社会へ主体的にかかわることができる。	3.5	2.7	問題の分類・分析に利用されるグラフについて紹介できた。これを利用して日常生活で感じているギャップについて情報収集したり情報分類・分析したりできるように工夫していきたい。	
総探	(1)課題の発見と解決に必要な知識や技能を身に付け、探究の意義や価値を理解することができる。	4.2	4.0	インターネットを使った調べ学習によって情報を集めたが、図書館の郷土資料も参照したい。	
	(2)地域や日常生活の関わりから、自分で課題を立て、情報を集めたり、表現したりすることができる。	3.7	4.2	地域の伝統文化の伝承と保存会の方と交流する大切さを理解することができた。引き続き交流を大切にした。	
	(3)課題に主体的に取り組んだり、他と協力して取り組んだりする経験を通して、新しいことにチャレンジしようとする姿勢を育むことができる。	3.8	4.1	地域の方の指導を受けることにより、地域活動を推進しようとする意欲が増した。次年度も地域の方の指導を仰ぎたい。	